

現代企業特論

(通年／4単位)

汪 志平

●テーマ

現代企業の経済学：理論、組織、統治、責任

●授業概要

日本企業は現在、様々な問題に直面している。技術革新や組織再編成、法制度の変化、日本の雇用慣行の意義と限界などについて、単に時流に乗ったり批判をするのではなく、基礎的な理論を背景に考えることが必要になっている。本講義はそのために不可欠な経済学的思想を学ぶことを目的としている。

企業はなぜ存在するのか？どのように行動するのか？どのように組織されているのか？これらを経済学的に解明し、企業の行動と組織の理論を体系的に学び、企業の姿を経済学で理解する。

●到達目標

・自ら現代企業研究のテーマを見つけ出し、そのテーマに関わる資料を収集し、問題を解決するという形で主体的な学びを遂行する能力を育成すること。

・質の高い研究報告を仕上げること。

・授業で学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

【春学期】

- 第1回 企業とは何か
- 第2回 株式会社制度の起源
- 第3回 株式会社を巡る変容
- 第4回 新古典派企業理論
- 第5回 エージェンシー理論の企業統治
- 第6回 上場会社の実態
- 第7回 企業組織の多様性と進化
- 第8回 資産特殊性と企業の境界
- 第9回 取引コスト理論と企業の境界
- 第10回 所有権理論と環境問題
- 第11回 所有権理論と企業組織
- 第12回 進化経済学企業間関係
- 第13回 行動経済学企業間関係
- 第14回 法の経済学と企業間関係
- 第15回 ゲーム理論と企業間関係

【秋学期】

- 第1回 リーダーシップ
- 第2回 会社法制と企業統治
- 第3回 競争優位のための戦略
- 第4回 垂直統合と系列取引
- 第5回 退出と発言による競争
- 第6回 範囲の経済と多角化
- 第7回 多国籍化
- 第8回 市場競争と研究開発投資
- 第9回 技能の修得と能力の学習
- 第10回 サプライチェーン
- 第11回 M&Aと経営効果
- 第12回 M&Aと企業統治
- 第13回 戦略的提携
- 第14回 労働システムとインセンティブ
- 第15回 企業文化と企業の社会責任

●事前学習

・配布された資料を丹念に読みこなし上で出席し、指定された部分の内容について報告する。

・資料に出た人名や専門用語の意味を自分で調べておく。

●事後学習

授業中に指摘された問題を解き、関連資料を探してみる。

●成績評価

・指定された資料の予習

・授業での報告と討論参加

・授業への出席状況

以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

中林真幸・石黒真吾 編『企業の経済学』有斐閣、2014年
小田切宏之『企業経済学（第2版）』東洋経済新報社、2010年
丸山雅祥『経営の経済学（新版）』有斐閣、2011年
菊澤研宗『組織の経済学入門』有斐閣、2006年

●備考

特になし。

ベンチャー企業特論

(通年／4単位)

佐藤 郁夫

●テーマ

社会変化とベンチャー

●授業概要

企業が新しい事業を創造するには大きく、①マーケティング、②資金調達（ファイナンス）の2つの要素が大切になります。もちろん、この場合のマーケティングには商品開発を含んでいますので、技術・デザインも含んでいます。とりわけ、商品デザインの要素（意思決定など思考方法を含めた）が重要視されます。そのため、授業では、受講学生の希望を取り入れながらも主にマーケティングの観点を中心に文献を選択していく予定です。

●到達目標

①マーケティング、②資金調達（ファイナンス）の2つの要素、とりわけマーケティングについてはサービスマーケティングに重点をおいて、新規事業に必要な、より高度な知識の習得を到達目標とする。

●授業計画

【春学期】（マーケティングを中心に）

- 第1回 マーケティング思考
- 第2回 マーケティング思考におけるシグナリングなど
- 第3回 マーケティング戦略
- 第4回 マーケティング戦略における経営戦略との相違、共通など
- 第5回 STP
- 第6回 市場とは何か
- 第7回 マーケティング・ミックス
- 第8回 起業時におけるマーケティング・ミックス
- 第9回 商品とは？
- 第10回 価格はどう設定する？
- 第11回 デザイン
- 第12回 市場変化におけるデザイン
- 第13回 消費者意識について
- 第14回 意思決定とマーケティング
- 第15回 まとめ

【秋学期】

- 第1回 サービスマーケティングとは
- 第2回 サービスのマーケティング・ミックス
- 第3回 サービス・エンカウンター
- 第4回 サービスマーケティングにおける市場志向と評価
- 第5回 ブランド戦略
- 第6回 ファイナンス概論
- 第7回 資金調達の種類
- 第8回 資金調達のタイミング
- 第9回 資金調達と市場変化への対応
- 第10回 社会変化と市場
- 第11回 ケイパビリティの戦略
- 第12回 SWOT分析
- 第13回 起業機会の発見
- 第14回 サービス企業とインターネット活用
- 第15回 総括的意見交換

●事前学習

指定テキストの熟読と質問事項の整理

●事後学習

授業後の指定テキスト等の再学習

●成績評価

授業の参加程度（発表頻度、発言内容等）に応じて総合的に評価します。

●テキスト

教科書は都度決めます。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

経営管理特論

(通年／4単位)

内田 一秀

●テーマ

現代の経営管理の特徴

●授業概要

最近、世界的に社会制度全体が流動化している。それに伴い企業の外部環境も激変している。これらに対応するため、企業や経営管理も大きな激動の兆しを見せている。こういった激動の時期の経営管理を理解するのは、その新しい様相をそれ自体をフォローすることは当然必要であるが、その様相の真の動因を突き止めるためには、小手先の研究では対応できない。広くかつ深く、本質的にじっくり対象を考察することが重要である。またこれらは通信・交通等の発達にともなう世界的なものであるから、国を超えた考察と同時に国別の比較も必要である。

このような視点から、本特論は最新の経営管理の様相を国際比較しつつ、適宜それにかかわる歴史と原理に遡って研究を行う。

●到達目標

先行研究を把握する。

●授業計画

まず最新の経営管理の様相のなかから適当ないくつかのトピックに関する文献を受講者と輪読して討論し、同時にそのトピックについて国際比較を行う。その際適宜、原理的な講義も行う。どのようなトピックを選ぶかは、受講者の希望も入れて相談する。したがって授業計画は、以下のようになる。

【春学期】

- 第1回 トピックの選択(1)——日本企業
- 第2回 トピックの選択(2)——アメリカ企業
- 第3回 トピックの選択(3)——東アジア企業
- 第4回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(1)——日本企業
- 第5回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(2)——アメリカ企業
- 第6回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(3)——東アジア企業
- 第7回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(4)——日本の製造業
- 第8回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(5)——日本の小売業
- 第9回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(6)——アメリカの小売業
- 第10回 いくつかのトピックそれぞれの文献収集と解題(7)——東アジアの小売業
- 第11回 文献の輪読と討論(1) — 文献 1章
- 第12回 文献の輪読と討論(2) — 文献 2章
- 第13回 文献の輪読と討論(3) — 文献 3章
- 第14回 文献の輪読と討論(4) — 文献 4章
- 第15回 文献の輪読と討論(5) — 文献 5章

【秋学期】

- 第1回 文献の輪読と討論(1) — 文献 6章
- 第2回 文献の輪読と討論(2) — 文献 7章
- 第3回 文献の輪読と討論(3) — 文献 8章
- 第4回 文献の輪読と討論(4) — 文献 9章
- 第5回 文献の輪読と討論(5) — 文献 10章
- 第6回 文献の輪読と討論(6) — 文献 11章
- 第7回 文献の輪読と討論(7) — 文献 12章
- 第8回 適宜の経営管理の原理と歴史の講義(1) — 日本企業
- 第9回 適宜の経営管理の原理と歴史の講義(2) — アメリカ企業
- 第10回 適宜の経営管理の原理と歴史の講義(3) — 東アジア企業
- 第11回 適宜の経営管理の原理と歴史の講義(4) — 概観
- 第12回 適宜の経営管理の原理と歴史の講義(5) — 総括
- 第13回 国際比較(1) — 日米
- 第14回 国際比較(2) — 日本と東アジア
- 第15回 国際比較(3) — 三者比較

●事前学習

提示した参考文献をあらかじめ読んで、質問を考えておく。

●事後学習

討議した事項を整理する。

●成績評価

割り当てられた報告、受講時の発言などで総合的に評価する。

●テキスト

テキスト等必要な文献は、受講生と相談して選定する。

●参考書・参考資料等

講義時に提示する。

●備考

特になし。

経営戦略特論

(春学期2回転／4単位)

平本 健太

●テーマ

競争戦略に関する議論を中心とした経営戦略論

●授業概要

キーワード：経営戦略、戦略策定、戦略実行

授業の目標：大学院修士課程レベルの経営戦略論の基本的理解を目指す。
修士論文作成の基礎となる論理的思考能力を涵養する。

●到達目標

経営戦略論に関する諸概念を理解する。

それら諸概念を用いて、経営現象を記述・分析できるようになる。

●授業計画

■テキスト1

- 第1回 経営戦略の論理とは (1章)
- 第2回 ポジショニング・アプローチ (2章)
- 第3回 資源アプローチ (3章)
- 第4回 ゲーム・アプローチ (4章)
- 第5回 学習アプローチ (5章)
- 第6回 戦略思考のバランス (6章)
- 第7回 全社戦略 (7章)
- 第8回 日本企業の問題と戦略重要性 (終章+補論)

■テキスト2

- 第9回 5つの考え方・計画 (まえがき～2章)
- 第10回 創発・ポジショニング・RBVF (3～5章)
- 第11回 ゲーム・反省・思考法 (6～8章)
- 第12回 具体例・顧客ダイナミズム・顧客 (9～11章)
- 第13回 差別化・競争・連鎖 (12～14章)
- 第14回 シナジー～反省的学習 (15章～エピローグ)
- 第15回 テキストに関するまとめのセッション

■ビジネスゲーム

- 第16回 ビジネスゲーム (1) : ゲームの概要
- 第17回 ビジネスゲーム (2) : 模擬戦
- 第18回 ビジネスゲーム (3) : 第1期～第10期
- 第19回 ビジネスゲーム (4) : 第11期～第20期
- 第20回 ビジネスゲーム (5) : 第21期～第30期
- 第21回 ビジネスゲーム (6) : 第31期～第40期
- 第22回 ビジネスゲーム (7) : 第41期～第50期
- 第23回 ビジネスゲーム (8) : 第51期～第60期
- 第24回 ビジネスゲーム (9) : 第61期～第70期
- 第25回 ビジネスゲーム (10) : 第71期～第80期
- 第26回 ビジネスゲーム (11) : 第81期～第90期
- 第27回 ビジネスゲーム (12) : 第91期～第100期
- 第28回 ビジネスゲーム (13) : ビジネスゲーム成果:行動分析
- 第29回 ビジネスゲーム (14) : ビジネスゲーム成果:戦略分析
- 第30回 ビジネスゲーム (15) : まとめセッション

《講義の進め方》

15回までは毎回担当者を決めて、

- 1) テキストの内容の報告
- 2) テキストの内容に関する事例報告
- 3) テキストの内容に関するディスカッションに関してプレゼンテーションを行う。

16回以降は、ビジネスゲームを実施する。ただし、ビジネスゲームを実施するためには最低3名の受講者が必要である。受講者数が3名を下回る場合には、やむを得ず別の文献等を講読することになる。

《注意事項》

開講時までに教科書を購入し、さしあたりテキスト1について予習しておくこと。
初回講義時に、テキスト1の第1章および第2章を講読するので、受講者どうしで調整して、第1章および第2章の報告者を必ず決めておくこと。(報告者が決まっていないと、初日の講義が成立しません)

●事前学習

- ・テキストの該当箇所を事前に精読する。
- ・報告者はビジュアルマテリアルを作成し報告の準備をおこなう。
- ・ビジネスゲームに際しては、毎回の行動と成果にもとづき次回以降の企業行動を立案する。

●事後学習

- ・講義中に適宜指示する関連文献等を読む。

●成績評価

テキストの理解度と報告状況、授業での発言内容 (50%)
および、期末レポート (50%) で総合的に評価する。

●テキスト

* 青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論 (第2版)』
：東洋経済新報社,2012,ISBN : 44925220341846684811

* 沼上 幹『経営戦略の思考法』
：日本経済新聞社,2009,ISBN : 453231478X

●参考書・参考資料等

必要に応じて、講義中に適宜指示します。

●備考

特になし。

経営組織特論

(通年／4単位)

中本 和秀

●テーマ

人間関係の省察

●授業概要

人間関係論（ヒューマン・リレーションズ）に関する諸文献を紹介する。組織において、あるいはもっと広義に表現すれば社会において、人が人とどうつきあっていくべきか、つまり人間関係をどのようにうまくやっていくのか、その秘訣とは何かについての関連する諸言説を取りあげ紹介する。それらの言説に貫かれている原理のようなものはいかなるものなのか、について考察していく。

●到達目標

ビジネス取引において基本となる人間関係のあり方について、一定の視点を獲得する。

●授業計画

- 第1回 モース「贈与論」
- 第2回 贈与と返礼の義務
- 第3回 贈与制度の発展
- 第4回 ブラウ「交換と権力」
- 第5回 社会的交換・社会的報酬
- 第6回 権力の源泉としての不均衡
- 第7回 権力の是認と否認・反抗
- 第8回 メイヨー「産業文明における人間問題」
- 第9回 ホーソン工場実験
- 第10回 面接制度
- 第11回 レスリスパーガー『経営と勤労意欲』
- 第12回 新しい人間観
- 第13回 面接法・人間的管理
- 第14回 フォーマル・インフォーマルな行動型
- 第15回 カーネギー「人を動かす」
- 第16回 人を動かす三原則
- 第17回 人に好かれる六原則
- 第18回 人を説得する十二原則
- 第19回 グラント「GIVE&TAKE」
- 第20回 ギバー・テイカー・マッチャー
- 第21回 恩送り
- 第22回 「戦略おべっか」
- 第23回 「一揆の原理」
- 第24回 大槻 久『協力と罰の生物学』
- 第25回 直接互惠性・間接互惠性
- 第26回 協力と罰
- 第27回 伊藤幹治『贈答の日本文化』
- 第28回 贈答の過去と現在
- 第29回 贈答のしくみ
- 第30回 贈答と現代の組織

●事前学習

事前に配布した資料を通読し、疑問点などを明らかにしておく。

●事後学習

講義のあと、気がついた点、疑問に思った点を「気づき票」に書き留めて、提出する。それらの問題点は次回講義において議論する。

●成績評価

配布する資料をあらかじめ読んできてもらう。それについて講義をおこなう。その後、理解した要点と質問を発表してもらう。それについて議論を行う。最後に全体についてレポートを提出してもらい、それらの総合評価によって成績評価を行う。

●テキスト

アダム・グラント『GIVE&TAKE』を主テキストとする。

●参考書・参考資料等

資料は事前に配布する。

●備考

出席と報告分担を重視する。

労務管理特論

(通年／4単位)

明 泰淑

●テーマ

グローバル化における日本的経営

●授業概要

本講義では、まず、「日本的経営」の下に運営されている人事・労務管理の現状と諸外国の人事労務管理とを比較し、日本企業の人事労務管理の特徴について学ぶことにする。

次に、グローバル化の進展に伴い先進国と発展途上国との間に挟まれ、厳しい国際競争を強いられている日本企業の人事・労務管理の再編・変容について学ぶ。

特に、日経連・経団連の「新・日本的経営」の下、多くの企業が先を争って導入している、能力主義・成果主義がどのように実施されて、それは働く側、日本社会に、どのような影響を及ぼしているのかを学ぶ。

●到達目標

プレゼンテーション能力が重要視されているなか、論文要約の仕方やレジュメ作成の方法をマスターすることで、受講生の能力向上に繋がる点が、本講義の有益、かつ意義である。

●授業計画

- 第1回 「日本的経営・人事労務管理」の特徴
- 第2回 人事労務管理の領域
- 第3回 人事労務管理の主体と対象
- 第4回 組織における人事管理部門の役割
- 第5回 日本の人事労務管理システムの基軸
- 第6回 アメリカの人事システムの基軸
- 第7回 日本の雇用慣行の形成背景
- 第8回 人事戦略と要員整理
- 第9回 日本企業の採用管理
- 第10回 アメリカ企業の採用管理
- 第11回 日本企業の賃金制度
- 第12回 アメリカ企業の賃金制度
- 第13回 日本企業の福利厚生の意義と範囲
- 第14回 アメリカ企業の福利厚生意義と範囲
- 第15回 人材育成とキャリア形成の日米比較
- 第16回 雇用調整と解雇
- 第17回 定年制度
- 第18回 定年制度の日米比較（事例から検討）
- 第19回 新時代の能力主義人事・労務管理
- 第20回 日本的雇用慣行の再編・日経連の方向
- 第21回 能力主義人事考課制度
- 第22回 富士通の事例から学ぶ（成果主義）
- 第23回 目標管理と人事考課
- 第24回 雇用の3グループへの転換
- 第25回 長期蓄積能力活用型の仕事の範囲と評価
- 第26回 高度専門能力活用型の仕事の範囲と評価
- 第27回 雇用柔軟型の仕事の範囲と評価
- 第28回 非正規の範囲・タイプ
- 第29回 限定社員の台頭と現況
- 第30回 雇用制度の再編が齎した日本社会の弊害

●事前学習

講義に関するレジュメを作成、提出させることで、講義内容をより一層整理させることを目指す。

●事後学習

講義内容に関連する、企業の動きを常にチェックし、雇用管理の現状について独自の検討結果を報告する。

●成績評価

授業への取り組み（レジュメの作成、報告の内容など）で評価する。

●テキスト

人事コース『人事労務管理』

●参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に知らせる。

●備考

基本的には、上記の掲示内容と最近急変する日本の雇用制度の動向に沿った内容を取り入れ講義を進めていくが、受講生の要望があれば、内容を若干変更することもありうる。

生産システム特論

(通年／4単位)

中山 健一郎

●テーマ

日本の生産システムの形成と発展(1回～10回)／海外への生産システムの移転(11回～30回)

●授業概要

本講義では、自動車産業やサービス産業における国内外での生産システムの形成、変化、移転にかかわる研究をおこなう。生産システムといっても多様な側面があるが、ここでは日本企業、日系企業を中心に品質、コスト、企業間関係などを扱い、企業の競争力の分析と制度設計の理論・実証研究について学習する。対象は、自動車産業が中心となるが、日本、東アジアや中国、欧米を視野に入れた産業の国際比較研究の視座をもち、最適国、最適地域での生産体制の構築はどうあるべきかを学ぶ。

●到達目標

各テーマに沿って受講者がそのテーマに関連した発表を行い、研究背景や問題をとらえる能力を身に付けさせる。また先行研究の研究視角を援用し、生産システムの基礎理論が理解できるようにする。

●授業計画

毎回、小テーマに沿った理論的課題を考察する。最新の論文を輪読し、それについてのグループディスカッションを行い、研究アプローチや分析視角、実証性について討議していく。ひととおり小テーマによる学習を終えた後は、小テーマに沿った研究報告をしてもらう予定である。

第1回 ガイダンス

第2回 日本の生産システムの特徴とは？

第3回 生産システムはどのような設計思想のもとつくられるのか？

第4回 取引関係がもたらす日本的な企業間関係

第5回 競争力概念と研究アプローチ：どのようなアプローチがあるのか？

第6回 インセンティブ制度を用いたコスト競争力：アメとムチの使い様

第7回 委託生産とは何か？知られざる日本の競争力

第8回 トヨタ自動車にみる競争力の歴史的形成

第9回 日産自動車にみる競争力形成

第10回 ホンダにみる競争力の歴史的形成

第11回 委託生産と委託開発

第12回 小括—日本の生産システムの形成と発展

第13回 自動車産業にみる生産システムの制度設計思想

第14回 生産システムの移転について (方法論)

第15回 生産システムの移転について (戦略論)

第16回 生産システムの移転について (発展論)

第17回 小課題の提示と説明

第18回 開発システムの移転について (方法論)

第19回 開発システムの移転について (戦略論)

第20回 生産システムの移転事例 (中国)

第21回 生産システムの移転事例 (アジア)

第22回 生産システムの移転事例 (欧州)

第23回 デジタルカメラ産業の委託生産

第24回 海外人材派遣の実態と課題

第25回 グローバル企業のグローバル人材育成と課題

第26回 現地経営と現地創造経営

第27回 新興国市場における生産・開発システムのあり方

第28回 海外での事業リスクとリスク・マネジメント

第29回 小括—海外への生産システムの移転

第30回 小テーマに沿った研究発表

●事前学習

事前に学習する内容の文献や資料を熟読し、授業に臨む習慣を身に付けてもらい、授業において適宜、質問や議論を行えるよう準備をしてもらう。

●事後学習

各自で授業のまとめを行いつつ、理解出来なかったところ、疑問を感じたところを各自、調べるとともに、その成果を次回の授業時に提示できるようにしてもらう。

●成績評価

出席状況、小テーマ研究発表 50%、授業での発言回数・内容 50%で評価する。

●テキスト

*塩地 洋・中山健一郎編『自動車委託生産開発のマネジメント』

：中央経済社 2016年4月

*中山健一郎・武者加苗・菊地 武『品格経営の時代に向けて』

：日科技連出版社 2015年

●参考書・参考資料等

*延岡健太郎『MOT [技術経営] 入門』：日本経済評論社,2006

*藤本隆宏『生産マネジメント入門ⅠⅡ』：日本経済新聞社,2001

●備考

本講義を受講する場合、学部の授業である「生産管理論」、「品質管理論」を受講していることが望ましい。

マーケティング特論

(通年／4単位)

臼井 栄三

●テーマ

マーケティングによる、現代社会と企業の課題解決

●授業概要

社会のあらゆる分野で重要性を増しているマーケティング。「わかる」「知る」の段階から、自らマーケティング発想をし、「使える」ものにして初めてマーケティングは「自分のもの」になります。本授業ではマーケティングを体系的にとらえながら、ケーススタディのディスカッションを通して、マーケティング発想と課題解決力を身につけていきます。現代の社会や企業が抱えるさまざまな問題を、マーケティングによって解決することを目指す実践的な授業です。

●到達目標

多岐にわたるマーケティングの体系的理解を深めると共に、ビジネス社会に活かせる実践的マーケティング・アプローチを身につける。

●授業計画

第1回 (オリエンテーション) 現代社会とマーケティング、マーケティング戦略

第2回 環境分析、セグメンテーション、(ケーススタディ) ノンアルコール飲料のマーケティング

第3回 ターゲティング、ポジショニング (ケーススタディ) アルコール飲料のマーケティング

第4回 マーケティング ミックス、(ケーススタディ) 食品のマーケティング

第5回 新製品開発のステージ (ケーススタディ) インスタント食品のマーケティング

第6回 顧客ニーズ分析、(ケーススタディ) 化粧品のマーケティング

第7回 価格戦略とチャネル選択、CRM (ケーススタディ) 通販化粧品のマーケティング

第8回 広告戦略と消費者の購買プロセス (ケーススタディ) 小売業におけるマーケティング

第9回 消費者のブランド選択、(ケーススタディ) コンビニエンス・ストアにおけるマーケティング

第10回 イノベーターと消費者アイデンティティ、(ケーススタディ) 自動車のマーケティング

第11回 パッケージ戦略とショッパーマーケティング、(ケーススタディ) オートバイのマーケティング

第12回 ブランド・アイデンティティと一貫性、(ケーススタディ) 世界的カフェチェーンにおけるマーケティング

第13回 コンセプトブランディングと USP、(ケーススタディ) 国内カフェチェーンにおけるマーケティング

第14回 顧客生涯価値とシンクロナシティ・マーケティング (ケーススタディ) 娯楽分野におけるマーケティング

第15回 マーケット志向、(ケーススタディ) 趣味の分野におけるマーケティング

第16回 ブルーオーシャン戦略とプラットフォーム戦略 (ケーススタディ) 情報産業におけるマーケティング

第17回 ビジネスモデル・イノベーション、(ケーススタディ) ライセンシング・ビジネス

第18回 パーパス・ドリブン・マーケティング、(ケーススタディ) 国際的ライセンス・ビジネス

第19回 ストーリーテリングと EBM、(ケーススタディ) 過疎地域活性化のマーケティング

第20回 マーケティング・ダッシュボード、(ケーススタディ) 地域活性化のマーケティング

第21回 インサイトとエスノグラフィ、(ケーススタディ) 国内航空会社におけるマーケティング

第22回 ペルソナ戦略、(ケーススタディ) 国際航空会社におけるマーケティング

第23回 エンゲージメントと顧客体験、(ケーススタディ) ハウスメーカーにおけるマーケティング

第24回 インタースティシャル広告、(ケーススタディ) 薬品におけるマーケティング

第25回 UGC とコ・クリエーション、(ケーススタディ) 顧客と企業が手を携えた製品開発

第26回 コミュニケーション・デザイン、(ケーススタディ) 顧客がリードする製品開発

第27回 戦略 PR と企業レピュテーション、(ケーススタディ) 金融におけるマーケティング

第28回 投資としての広告、(ケーススタディ) 保険におけるマーケティング

第29回 コンテンツマーケティングとキュレーション、(ケーススタディ) 旅行業におけるマーケティング

第30回 BOP 戦略とリバーズイノベーション、(ケーススタディ) スポーツにおけるマーケティング

●事前学習

ケーススタディの課題について、レポート作成と発表内容をまとめておくこと。

●事後学習

配布した資料を、関連内容に結びつけながら理解しておくこと。

●成績評価

授業での積極性と発言内容 40% 課題へのレポート 60%で評価する。

●テキスト

*田中 洋著『マーケティングキーワード ベスト 50』

: 株ユーキャン学び出版発, 2014

●参考書・参考資料等

*青木貞茂著『文化の力 カルチュラル・マーケティングの方法』

: NTT 出版株式会社, 2008

*マーチン・リンストローム著『五感刺激のブランド戦略』

: ダイアモンド社, 2005

●備考

授業におけるディスカッションでは、積極的に発言するのが望ましい。

社会心理学特論 I

(通年 / 4 単位)

酒井 春樹

●テーマ

人間関係と集団・組織行動の諸問題

●授業概要

社会心理学を経営学の諸領域に活かすことを目標として、人々の社会的行動の原理とダイナミクスを、社会心理学の視点から考える。社会的行動は、その分析単位によって、個人レベル、集団レベル、組織レベル、集合行動に大別できる。それぞれの行動の性質とその背後にある心理のプロセスを、理論的実証的に解明していきたい。

●到達目標

- ・集団と組織における人々の意識的・無意識的な心理と行動を理解すること。
- ・修士論文を終えて職業人となったとき、この授業で学習したことを活かせるようにすること。

●授業計画

次のテーマに沿って、順次、授業を進める。ただし、授業の進度により一部変更することもあり得る。

I. 社会心理学とは

第1回 社会心理学の歴史的展開

II. 対人関係と社会的行動の基礎課程

第2回 対人認知と自己認知

第3回 態度の形成と変化

第4回 認知的斉合性理論

(バランス系諸理論と認知的不協和理論)

第5回 潜在的認知と顕在的認知

第6回 社会的認知の神経科学：大脳皮質

第7回 社会的認知の神経科学：辺縁系と中心核

III. 対人コミュニケーションと社会的相互作用

第8回 コミュニケーションと説得：理論

第9回 コミュニケーションと説得：応用

第10回 影響力の行使戦略：賞罰の力と限界

第11回 影響力の行使戦略：場面設定

第12回 攻撃行動の二面性：衝動的攻撃

第13回 攻撃行動の二面性：戦略的攻撃

第14回 自己開示

第15回 印象操作

IV. 集団過程と組織行動

第16回 個人と集団

第17回 集団意思決定

第18回 規範と同調

第19回 伝統的リーダーシップの諸理論

第20回 革新的リーダーシップ

第21回 職場の人間関係：公式関係と非公式関係

第22回 職場の人間関係：上下関係と水平関係

第23回 人的資源管理

第24回 組織の倫理

第25回 組織の病理

V. 集合行動

第26回 流行と普及過程第

第27回 広告・マーケティングの心理と倫理

第28回 消費行動の心理学

第29回 インターネットの社会心理学

VI. まとめと討論

第30回 まとめと討論

●事前学習

学部段階までの社会心理学の概論的知識を復習する。

●事後学習

授業のなかで出てきた文献の原典にあたり理解を深める。

●成績評価

授業における発表 (50%)、討論参加 (30%)、課題レポート (20%) を総合して評価する。

●テキスト

最初の授業時に複数のテキスト候補文献を呈示し、履修者と相談して決める。

●参考書・参考資料等

必要に応じて、その都度、紹介する。

●備考

特になし。

外国文献研究Ⅱ

(通年／4単位)

明 泰淑

●テーマ

P.F.ドラッカーの『現代の経営』から学ぶマネジメントの仕組み

●授業概要

この講義の目的は、経営学のバイブルともいえる、P.F.ドラッカーの『現代の経営』の原書を読むことで、再度、経営学を深く理解することである。国際化時代にあつて、経営学の理論的把握がより重要になってきている今日、企業経営における組織の構造、ヒトと仕事のマネジメント、意思決定とその仕組みなどを学ぶ。

●到達目標

毎回のテーマ内容の要約を日本語と英語で報告することによって、英会話力をも伸ばしていくことができる。従来の文献読みだけによる理解ではない、実生活にも活用できることが、本講義の意義である。

●授業計画

(PART I)

- 1 The Role of Management
- 2 The Jobs of Management
- 3 The Challenge to Management
- 4 The Sears Story
- 5 What is a Business
- 6 What is our Business & What Should it be
- 7 The Objectives of Tomorrow's Results
- 8 Today's Decisions for Tomorrow's Results
- 9 The Principles of Production
- 10 The Ford Story
- 11 Management by Objective and Self Control
- 12 Managers Must Manage
- 13 The Spirit of an Organization
- 14 Chief Executive and Board
- 15 Developing Managers

(PART II)

- 16 What Kind of Structure
- 17 Building the Structure
- 18 The small, the Large, the Growing Business
- 19 The IBM Story
- 20 Employing the Whole Man
- 21 Is Personnel management Bankrupt
- 22 Human Organization for Peak Performance
- 23 Motivating to peak Performance
- 24 The Economic Dimension
- 25 The supervisor
- 26 The Professional Employee
- 27 The Manager and His Work
- 28 Making Decisions
- 29 The Manager of Tomorrow
- 30 The Responsibilities of Management

●事前学習

テキストの読解文について、和訳のレジメを作成、提出させることで講義内容をより一層整理させることを目指す。

●事後学習

文献をもとに内容を常にチェックし、正しい和訳になっているか、hearing や speech をうまく聞き取り、質問にお返しできるようにすることを目指す。

●成績評価

授業への取り組み（レジメの作成、報告の内容など）で評価する。

●テキスト

講義に使用するテキスト以外に、受講者の関心事である関連英文書物があれば、相談の上取り入れることもできる。

●参考書・参考資料等

講義内容に沿って参考資料は配布する。

●備考

春学期の進捗によって、相談の上内容を変更することもありうる。

財務会計特論

(通年／4単位)

佐藤 芳次

●テーマ

財務諸表形成の諸基準

●授業概要

利害関係者の意思決定に資する会計情報提供の理論領域を財務会計論と称している。この場合、特に利益情報に焦点を当て、その数値形成に関わる方針決定や選択や判断の分析を課題とする。

国際化や金融自由化といった会計環境の変化の中でいかなる会計基準によりまたよるべきかを講義するが、最終的には利益情報形成との関わりで、その分配可能性と業績指標性とのトレードオフの問題の解明に取り組むことになる。

●到達目標

国際経済基準の動向と日本基準の特徴を、評価論のレベルで理解し、あるべき基準を提案する。

●授業計画

- 第1回 財務会計論の方法：総論
- 第2回 財務会計論の焦点（各論）
- 第3回 企業会計の計算構造
- 第4回 財務内容開示制度
- 第5回 連係的利益観
- 第6回 連係的利益観と評価
- 第7回 資産概念
- 第8回 資産と評価基準
- 第9回 債権
- 第10回 有価証券
- 第11回 棚卸資産と収益確認
- 第12回 棚卸資産と費用確認
- 第13回 使用資産
- 第14回 無形資産、繰延資産
- 第15回 資本と利益
- 第16回 会計環境の変化：総論
- 第17回 会計環境の変化と企業会計の論点（各論）
- 第18回 評価と時価主義会計
- 第19回 連結財務諸表：作成の意義
- 第20回 連結財務諸表：会計処理と問題点
- 第21回 企業結合、企業再編と「のれん」
- 第22回 外貨換算の意味
- 第23回 換算の会計処理と問題点
- 第24回 金融商品
- 第25回 デリバティブ
- 第26回 退職給付会計
- 第27回 減損会計
- 第28回 純資産の部
- 第29回 純利益と包括利益
- 第30回 変容する会計基準と制度

●事前学習

IFRS と日本基準に目を通しておく。

●事後学習

講義中に配布された資料をもって、自分の意見を再構成してみる。

●成績評価

出席、授業での発言内容、提出レポートの内容で総合的に評価する。

●テキスト

特定のテキストは用いない（レジメと資料によって講義をすすめる）。

●参考書・参考資料等

文献や資料はそのつど紹介する。

●備考

特になし。

原価計算特論

(通年／4単位)

靄 日出郎

●テーマ

企業経営における原価計算の機能

●授業概要

企業を取り巻く環境は日々変化しております。したがって、経営者は企業を維持、存続させるために常に適切な意思決定を行わねばなりません。経験や勘に頼るのではなく、事業経済性(business economics)の観点から、合理的な意思決定を行うことが必要になります。

この講義では原価計算のデータが合理的な意思決定にどのように貢献するのか、経営者が合理的な意思決定を行うために必要な会計データとはどのようなものかなどについて基礎的な理解を深めた上で、経営意思決定との関連で原価計算の有効性や会計データの限界などを考察します。

●到達目標

経営現場で原価計算のデータを使って適切な意思決定を行うことができる。

●授業計画

おおむね、次のように考えていますが、履修者と相談の上、一部、変更することもあります。

- 第1回 原価計算の目的
- 第2回 原価計算と意思決定
- 第3回 短期的意思決定
- 第4回 差額原価分析
- 第5回 長期的意思決定
- 第6回 貨幣の時間価値
- 第7回 付加価値分析
- 第8回 価値連鎖
- 第9回 活動基準原価計算(ABC)の生成
- 第10回 活動基準原価計算の特徴
- 第11回 活動基準原価計算の現状
- 第12回 活動基準原価計算の問題点
- 第13回 時間主導型活動基準原価計算(TDABC)の生成
- 第14回 時間主導型活動基準原価計算の特徴
- 第15回 時間主導型活動基準原価計算の課題
- 第16回 原価企画の目的
- 第17回 原価企画の問題点
- 第18回 原価企画の課題
- 第19回 標準原価計算の生成
- 第20回 標準原価計算と原価管理
- 第21回 標準原価計算の限界
- 第22回 標準原価計算の課題
- 第23回 直接原価計算の生成
- 第24回 直接原価計算の特徴
- 第25回 直接原価計算と利益計画
- 第26回 直接原価計算の問題点
- 第27回 直接原価計算の課題
- 第28回 損益分岐点分析の有効性
- 第29回 損益分岐点分析の問題点
- 第30回 予算管理の目的と意義

●事前学習

今回のテーマについて、議論となる問題点および自分の問題意識を整理しておく。

●事後学習

講義で修得した事項について内容を整理するとともに、その問題点についてまとめておく。

●成績評価

出席状況や受講態度、授業での発表内容などで総合的に評価します。

●テキスト

西山 茂『戦略管理会計』：ダイヤモンド社

●参考書・参考資料等

講義時に指示します。

●備考

特になし。

経営分析特論

(通年／4単位)

岩橋 忠徳

●テーマ

経営分析に関する理論と技法

●授業概要

企業を取り巻く利害関係者が適切な意思決定を行うために、当該企業によって作成される会計情報を入手して、各種の指標に基づいて分析を行うことを経営分析という。経営分析を行う上で、財務諸表に含まれる貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等計算書といった各財務表における計算構造への理解も必要であるが、財務表同士がどのように関わっているのかについても学ぶことが重要である。

本講義では、経営分析の対象となる財務諸表における計算構造を学んだ上で、企業を時系列的に比較する、あるいは同業他社や業界平均との比較を行うために必要とされる収益性、安全性、生産性、成長性の四つの指標を用いた経営分析の理論や技法について考察する。さらに、有価証券報告書等を用いて実際に分析・評価を行ってもらう予定である。

●到達目標

文献を読み込んで理解を深め、経営分析の理論的な知識や技法を修得する。

●授業計画

【春学期】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 財務諸表とは何か
- 第3回 貸借対照表の意義と役割
- 第4回 貸借対照表の計算構造—資産概念
- 第5回 貸借対照表の計算構造—負債概念
- 第6回 損益計算書の計算構造—収益概念
- 第7回 損益計算書の計算構造—費用概念
- 第8回 包括利益計算書の計算構造
- 第9回 キャッシュ・フロー計算書(直接法)の計算構造
- 第10回 キャッシュ・フロー計算書(間接法)の計算構造
- 第11回 投資活動によるキャッシュ・フローの計算構造
- 第12回 財務活動によるキャッシュ・フローの計算構造
- 第13回 貸借対照表と損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書との関係性
- 第14回 株主資本等変動計算書の計算構造
- 第15回 株主資本等変動計算書と純資産の部との関係性

【秋学期】

- 第1回 財務諸表の計算構造
- 第2回 収益性に関する分析指標
—総資本経常利益率、総資本純利益率
- 第3回 収益性に関する分析指標
—売上高総利益率、売上高経常利益率
- 第4回 収益性に関する分析指標
—売上高対労務費比率、総資本回転率
- 第5回 安全性に関する分析指標—流動比率、当座比率
- 第6回 安全性に関する分析指標—固定長期適合率、固定比率
- 第7回 安全性に関する分析指標—自己資本比率、財務レバレッジ
- 第8回 生産性に関する分析指標—労働分配率、付加価値比率
- 第9回 生産性に関する分析指標—機械投資効率、有形固定資産投資効率
- 第10回 成長性に関する分析指標
- 第11回 株価収益率(PER)と株価純資産倍率(PBR)
- 第12回 経営分析指標に基づく総合的な評価
- 第13回 有価証券報告書等を用いた経営分析実践—製造小売業に関して
- 第14回 有価証券報告書等を用いた経営分析実践—家電メーカーに関して
- 第15回 有価証券報告書等を用いた経営分析実践—コンビニエンスストアに関して

●事前学習

指定された文献ならびに資料をあらかじめ読んでおくこと。

●事後学習

講義時に文献ならびに資料から得られた疑問点や問題点について自分なりに整理しておくこと。

●成績評価

出席状況や講義での報告等を総合的に評価する。

●テキスト

受講者と相談の上、決定する。

●参考書・参考資料等

受講者と相談の上、決定する。

●備考

特になし。

地域情報システム特論

(通年／4単位)

千葉 博正

●テーマ

企業の物流担当者として国際物流システムの仕組みや実務を理解すること

●授業概要

本科目は、様々な地域情報システムのうち地域産業の振興に必要な情報システムとして流通システムを取り上げ、特に近年地域活性化の梃子として注目されている、国際物流システムについて基礎的な知識の修得と、地域社会において国際物流システム(貿易)が必要とされている背景等について理解を深めることを目的としている。春学期は国際物流システムについてその概要を把握すると共に、北海道の物流について理解を深める。秋学期は事例研究を通じて国際物流システムシステムの実際、その課題等についてゼミ形式の講義を行う。

●到達目標

国際物流システムの要素やメカニズムについてその概略が理解できると共に、各種の事例調査を通じて実務上の知識や地域経済における課題などが理解出来るようにする。

●授業計画

1. ガイダンス

第1回 ガイダンス

2. 国際物流システムの概要

2-1 国際取引と関係企業・機関の位置づけ

第2回 国際取引の形態

第3回 国際取引と商社

第4回 通関手続きと通関業者

第5回 輸送形態と輸送業者

2-2 輸出入の流れと関係企業・機関の役割

第6回 輸出入の交渉と売買契約

第7回 信用状の仕組み

第8回 船荷証券の仕組み

第9回 貿易条件の種類

第10回 品質条件の種類

第11回 関税の仕組み

第12回 関税三法

第13回 保税制度の概要

第14回 保税運送制度

第15回 保税地域制度

3. 国際物流業務の実際

3-1 輸送機関と荷役業務

第16回 海上輸送とコンテナ・ターミナル

第17回 貨物の荷姿と梱包

第18回 海上運賃の構成

第19回 航空輸送の仕組み

第20回 航空運賃の構成

第21回 航空運送状

3-2 信用状と決済等

第22回 信用状の種類と決済方法

第23回 信用状以外の決済方法

第24回 外国為替相場

第25回 海上保険の種類

第26回 貿易保険

第27回 動物検疫と植物検疫

第28回 輸入貨物の引き取り方法

第29回 業務処理システムの概要

第30回 各種貿易書類の記載例

●事前学習

ガイダンス時に紹介するテキストや参考文献に基づき、各テーマの要約を作成し討議に参加すること。

●事後学習

各自が作成したテーマ毎の要約を補足し理解を深めること。

●成績評価

研究レポートの評価、定期試験の成績、事例研究の成果発表、出席状況を総合して評価する。

●テキスト

木村雅晴 著：「はじめての貿易実務」、ナツメ社

●参考書・参考資料等

鈴木 暁 著：「国際物流の理論と実務」、成山堂書店

●備考

本講義を受講する場合は事前に学部の講義である「ビジネス・ロジスティクス」を受講することが望ましい。

情報ネットワーク特論

(通年／4単位)

大森 義行

●テーマ

情報ネットワークの理解

●授業概要

コンピュータネットワークは情報流通インフラとして、今や我々の生活に欠かせないものとなっている。中でもインターネットの出現によって、企業内に閉じられていた情報システムが、一挙に社会全般におよぶ広がりを見せるようになり、20世紀型の産業社会に大変革をもたらしてきた。

●到達目標

ここでは、まずコンピュータネットワークの技術論を学習し、自らネットワークの構築が出来るようにする。また、インターネットが形成するデジタルネットワーク社会に対応できる素養を身につける。

●授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 授業テーマの設定

第3回 文献の探し方

第4回 ネット社会の現状

第5回 コンピュータネットワークの基本(1)

～クライアントサーバシステム～

第6回 コンピュータネットワークの基本(2)

～3つのトポロジ～

第7回 コンピュータネットワークの基本(3)

～イーサネットについて～

第8回 コンピュータネットワークの基本(4)

～CSMA/CD方式～

第9回 コンピュータネットワークの基本(5)

～トークンパッシング方式～

第10回 OSI基本参照モデルの概要

第11回 OSI基本参照モデル(1)～物理層

第12回 OSI基本参照モデル(2)～MAC層

第13回 OSI基本参照モデル(3)～ネットワーク層

第14回 OSI基本参照モデル(4)～上位層

第15回 TCP/IPとは

第16回 Windowsネットワークの構築(1)

～ネットワーク設定の確認～

第17回 Windowsネットワークの構築(2)

～IPアドレスについて～

第18回 Windowsネットワークの構築(3)～ICMPコマンド～

第19回 Windowsネットワークの構築(4)～ポート～

第20回 Windowsネットワークの構築(5)～LAMPモデル～

第21回 ネットワーク事例の調査 ～学内システム～

第22回 インターネットの基本(1)～発展の歴史

第23回 インターネットの基本(2)～ブロードバンド

第24回 インターネットの基本(3)～モバイルインターネット

第25回 インターネットの基本(4)～SNS

第26回 インターネットの基本(5)～セキュリティ

第27回 ネットワーク事例の調査 ～企業システム～

第28回 Web2.0のめざす社会

第29回 シンギュラリティとは

第30回 まとめ

●事前学習

指示された文献を読みこなし、次回のテーマへ備えること。

●事後学習

学習結果を踏まえ、得られた知見を整理しファイルすること。

●成績評価

出席、授業での発言内容、研究レポートなどで総合的に評価する。

●テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

●参考書・参考資料等

特になし。

●備考

特になし。

人工社会特論

(通年 / 4 単位)

伊藤 公紀

●テーマ

人工社会シミュレーションを用いた社会科学的手法の理解

●授業概要

社会を一種の人工物として捉え、シミュレーションやゲーミングを用いて社会事象を理解しようとする手法がある。シミュレーションは、直接的に観察・実験することが困難な場合に有効である。また、ゲーミングは、現実を抽象化した仮想空間の中でルールに従い情報交換をしながら意思決定を行う課題解決のプロセスといえる。

本講義では、上記アプローチによる社会事象の解析手法について学ぶ。

●到達目標

人工社会・マルチエージェントシステムの基本について説明できること。

●授業計画

- 第1回 人工社会シミュレーションの概観
- 第2回 オブジェクト指向プログラミング
- 第3回 マルチエージェント・シミュレーションとオブジェクト指向
- 第4回 人工社会の発想とモデリング
- 第5回 エージェントとは
- 第6回 エージェントの設計と拡張性
- 第7回 エージェントの活動する空間・世界
- 第8回 シミュレーションの過程のモニタリング
- 第9回 Sugarscape モデル (基本)
- 第10回 Sugarscape モデル (交配)
- 第11回 Sugarscape モデル (公害)
- 第12回 Sugarscape モデル (文化)
- 第13回 Sugarscape モデル (取引)
- 第14回 Sugarscape モデル (疾病)
- 第15回 Sugarscape モデル (戦争)
- 第16回 Schelling の分居モデルの設計 (Agent クラス, World クラス)
- 第17回 Schelling の分居モデルの設計 (Analysis クラス)
- 第18回 Schelling の分居モデルシミュレーターのコーディング (Agent クラス)
- 第19回 Schelling の分居モデルシミュレーターのコーディング (World クラス)
- 第20回 Schelling の分居モデルシミュレーターのコーディング (Analysis クラス)
- 第21回 シミュレーションの実行と結果の整理
- 第22回 シミュレーションの評価とモデルの再検討
- 第23回 複雑系とマルチエージェント・モデル
- 第24回 災害・避難シミュレーション
- 第25回 災害・避難シミュレーションの最近の論文例
- 第26回 教育事象シミュレーション
- 第27回 教育事象シミュレーションの最近の論文例
- 第28回 マルチエージェント・シミュレーションとゲーミング
- 第29回 マルチエージェントを用いたゲーミングの最近の論文例
- 第30回 これまでのまとめ

●事前学習

シラバスや講義のまとめで説明する次回の講義内容について、配布資料等でその概要を掴んでおくこと。

●事後学習

前回までの講義のノート等を確認して、理解が不十分であった箇所等を調べたり質問したりすること。

●成績評価

議論内容等の平常点で評価する。

●テキスト

必要に応じて資料を配布する。

●参考書・参考資料等

必要に応じて資料を配布する。

●備考

オブジェクト指向プログラミングの基本的知識を有することを履修の条件とする。

現代企業特別演習

(通年 / 4 単位)

汪 志平

●テーマ

中国市場における日本企業の経営戦略

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

授業中に指摘された問題を解き、関連資料を探してみる。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
- ・中間報告および面接報告の内容
- ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

ベンチャー企業特別演習

(通年／4単位)

佐藤 郁夫

●テーマ

社会変化とベンチャー

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしただで出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

授業後の指定テキスト等の再学習

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

教科書は都度決めます。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

経営管理特別演習

(通年／4単位)

内田 一秀

●テーマ

日本企業の経営管理の課題

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしただで出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

点検した草稿の修正

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

未定。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

経営組織特別演習

(通年／4単位)

中本 和秀

●テーマ

ブランド戦略

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしただで出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

演習時に指摘された課題や問題点について、資料などを調査して確認・検討する。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

田中 洋「ブランド戦略の原理」『書齋の窓』：有斐閣、2015年9月～2016年1月所収

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

労務管理論特別演習

(通年／4単位)

明 泰淑

●テーマ

経営学修士学位を取得するまでのPDC

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしただで出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

上記の事前学習をこまめに行うことで、研究テーマおよび関連知識をも広めることになり、論文の完成度が高くなる。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

特に指定しないが、論文に関わる関連書物を講義中に知らせる。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

生産システム特別演習

(通年／4単位)

中山 健一郎

●テーマ

「生産システム研究」に基づいた修士論文の製作とその方法論について

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

- ・指導教員が添削したところや指導した部分についての修正を行うと同時に、中間報告のための資料の作成を行う。
- ・関連図書の熟読と要約を行う。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

- *塩地 洋・中山健一郎編『自動車委託生産開発のマネジメント』
：中央経済社 2016年4月
- *中山健一郎・武者加苗・菊地 武『品格経営の時代に向けて』
：日科技連出版社 2015年

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

原価計算特別演習

(通年／4単位)

靄 日出郎

●テーマ

直接原価計算の有用性

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

指摘事項は指導後に復習し、必ず修正すること。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

特定のテキストは使用しない。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

情報ネットワーク特別演習 (通年/4単位) 大森 義行

●テーマ

情報ネットワークの構築

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

学習結果を踏まえ、指摘された事項を論文に反映させる。結果についてメールにて必ず報告する。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

特になし。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。

人工社会特別演習 (通年/4単位) 伊藤 公紀

●テーマ

人工社会シミュレーションを用いた社会科学研究

●授業概要

受講者の各自の研究テーマに応じて、修士論文作成のサポートをすることを目的とする。テーマ設定の仕方、テーマに沿った文献収集の仕方、文献の読み方、論文の組み立て方など具体的な指導を行う。

●到達目標

- ・自ら研究テーマを見つけ出し、それに取り組み、そのテーマに関わる問題を解決し、一連の成果を論文作成と言う形でまとめるという主体的な学びのプロセスをしっかりと遂行すること。
- ・修士の学位の名に恥じない質の高い論文を仕上げること。
- ・論文作成までのプロセスで学んだことを、修士課程修了後の自分の進路で生かせるようにすること。

●授業計画

以下のとおりであるが、受講者が想定している修士論文テーマの内容や研究方法によって変わることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方
- 第3回 研究テーマの大まかな決定
- 第4回 文献の探し方
- 第5回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (1)
- 第6回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (2)
- 第7回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (3)
- 第8回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (4)
- 第9回 研究テーマ関連文献の概要報告と指導 (5)
- 第10回 文献リストの作成 (修士論文完成まで続ける)
- 第11回 研究方法の指導
- 第12回 研究方法の決定
- 第13回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (1)
- 第14回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (2)
- 第15回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (3)
- 第16回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (4)
- 第17回 研究方法に即しての文献熟読と概要の報告 (5)
- 第18回 修士論文の骨子 (章立て) の作成指導
- 第19回 修士論文の第一章の報告と指導
- 第20回 修士論文の第二章の報告と指導
- 第21回 修士論文の第三章の報告と指導
- 第22回 修士論文の第四章の報告と指導
- 第23回 修士論文全体の章立て決定
- 第24回 修士論文の第一章の仕上げ
- 第25回 修士論文の第二章の仕上げ
- 第26回 修士論文の第三章の仕上げ
- 第27回 修士論文の第四章の仕上げ
- 第28回 修士論文の完成
- 第29回 修士論文の完成指導
- 第30回 修士論文の提出

●事前学習

- ・関連書籍や論文を丹念に読みこなしの上で出席し、指定された内容に基づき、毎回論文作成を進め、途中経過を必ず報告する。
- ・論文作成にあたって、直面している問題点や疑問点を毎回丁寧にまとめておく。

●事後学習

指示された内容に基づき研究を進め、また、研究遂行上での問題点等を確認し報告できるようにしておくこと。

●成績評価

- ・修士論文の完成度
 - ・中間報告および面接報告の内容
 - ・演習への出席と準備状況
- 以上の3点が評価項目になる。

●テキスト

必要に応じて資料を配布する。

●参考書・参考資料等

修士論文のテーマに沿って随時紹介する。

●備考

特になし。